

世界が急速に均質化するなか なおも伝統を保つ少数民族の貴重な記録

Invisible Peoples 世界の少数民族

写真・文：イアゴ・コラツァ グレタ・ローパ／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

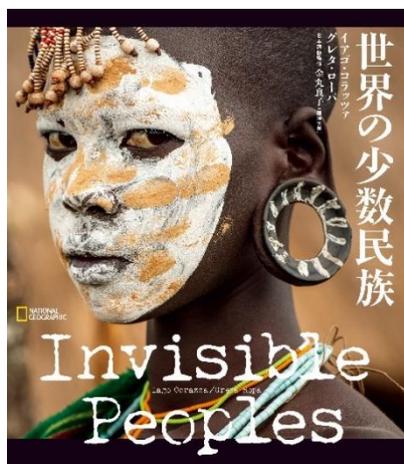
日経ナショナル ジオグラフィック社（代表：中村尚哉、所在地：東京都港区虎ノ門）は、
『Invisible Peoples 世界の少数民族』を10月22日（火）に発行します。

本書は、世界の少数民族のうち、特に伝統がよく保存されている21の集団を記録したビジュアル書籍です。取り上げられている人々は、グローバル化の波が押し寄せるなか、強い意志をもって伝統を伝えている集団ですが、それは一方で排他的である可能性も含んでいます。たとえば、アルメニアに居住するロシア系のモロカン派は来訪者を歓迎せず、これまでほとんど日本のメディア露出がありませんでした。

また、なるべく伝統を残した集団を探し訪ねたため、亜集団が複数存在するナガ人の場合、本書ではコニャック・ナガとワンチョ・ナガの2集団を取り上げています。こうした方針で、都市の横で遊牧生活を続けるラバーリー、泥人間で伝説を再現するアサロ、この世ならざるものに従うコディ、仮の地に住むヤスディ教徒のクルド、戦争儀式が重要な役割を果たすマンガライなど、多様な姿を収めました。

イタリアのナショナル ジオグラフィックで活躍する写真家による圧倒的な写真では、人々を中心に、独特の建築、美しい自然、勇壮な儀式などを捉えています。写真とともに、現地取材による文章が、価値観・生活様式・自然環境・服飾の多様性を伝えます。

著者は100年後にはこうした姿は消え去っているのではないかと記しています。今現在の少数派の記録として、非常に意義のある一冊です。



Invisible Peoples 世界の少数民族

2019年10月22日発行／定価 4,200円＋税／264ページ／ハードカバー／
サイズ：天地248mm×左右215mm／写真・文：イアゴ・コラツァ、
グレタ・ローパ／日本語版監修：金丸良子（麗澤大学客員教授）／
発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

【主な内容】

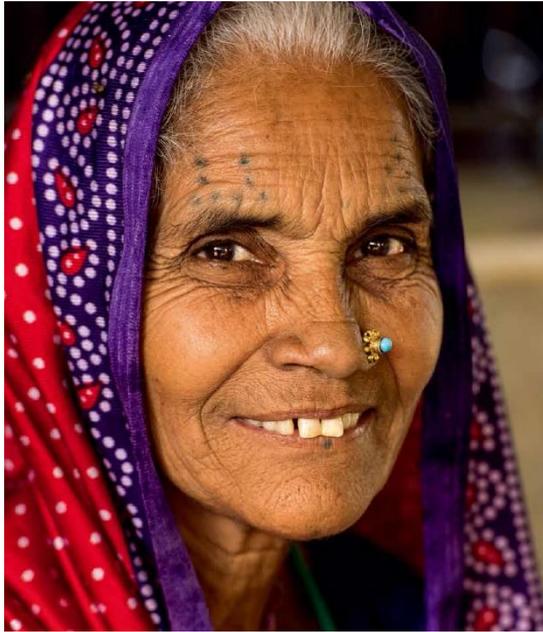
- 女性 長角ミャオ／ボンダ／モソ／ハニ／黒イ
- 挑戦 アサロ／マンガライ／スリ／コニャック・ナガ
- 孤立 ラバーリー／ベルベル／ヤスディ教徒のクルド
- 宗教 トダ／コディ／モロカン派
- 自然 ビシュノイ／ワンチョ・ナガ／バナアツ
- 印とシンボル デジア・コンド／トゥロン／アパタニ

ナショジオストア <https://nationalgeographic.jp/atcl/product/19/092600035/>
Amazon <https://www.amazon.co.jp/gp/product/4863134541/>

- 少数民族のうち、とくに伝統を守り伝えることに努めている集団を取り上げている。
- 写真の寄せ集めではなく、現地を訪ね撮影し、聞き取りをした、現状のリアルな記録。
- モロカン派など、これまでほぼメディア露出がなかった人々も掲載。
- 調べ物学習にも、秘境の写真集としても、少数民族の現状を知る参考資料としても最適。

Invisible Peoples 世界の少数民族

10月22日発行 / 日経ナショナル ジオグラフィック社



ラバーリー 【インド グジャラート州】



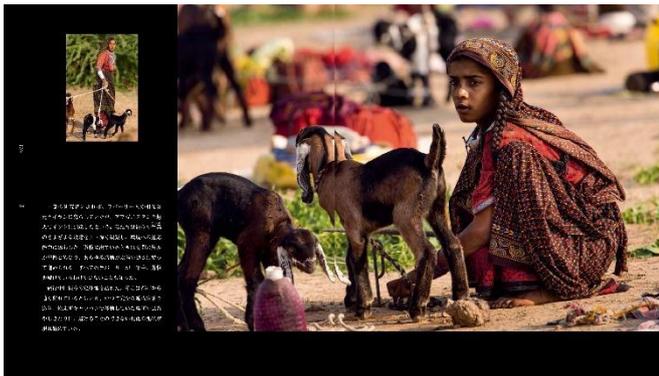
初めてラバーリーの人々を会ったときのこと。第一印象に決まっていること
 といえば、砂ぼこりだ。ラバーリーのオキヤパンが足を止めてからしばらく経
 つに、まだ砂ぼこりがキャラパンの履りに立ちこめている。その川でキャラパン
 のメンバがせせとヒトコブタダから高鳴を下げている。この極端な暑物は
 今もラバーリーの文化の骨である。ラクダならはゆっくると歩幅をきりながら、
 眠ったり、うめいたり、休んだりしている。ラバーリーの人々は、自分たちはラク
 ダを飼育しているだけでなく、守っているのだと考えている。ヒトコブタダは神聖
 な生きものとして、ラバーリーにとって、ラクダの世話をするとは自分たちの家
 系に言われた、業の言葉なのだ。

砂塵

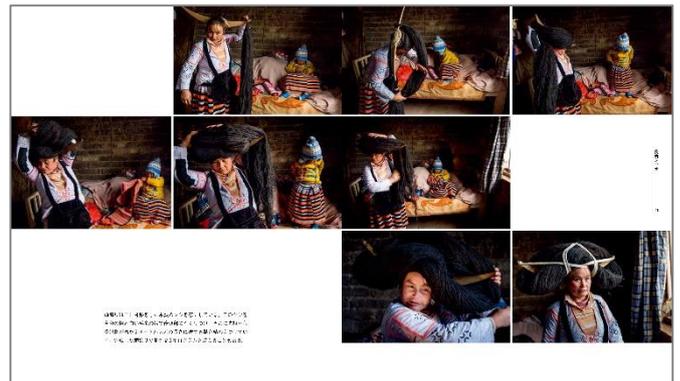
ラバーリーは旧暦の手で失われてしまった宗教生活を今も続ける。人権上の
 生きるモニュメントだ。私たちが理解したグループは少人数でラバーリーがうしろの
 結びが深かった。女性たちははたきで縫っていた。誰も自分の村をきりきりと
 離れ、ターム（インド北部にある世界遺産の現地の宗教的）でどう行動すべ
 きか手前に分かっていた。グジャラート州のラクダの宿営した地域をラバーリー
 は何重にもわたって監視していた。彼らはこの地域をカッチと呼ぶ。カッチ
 は「動に拒絶し、動に同化する」という意味で、この地方の過酷な気候を可能に
 変えている。人間を常に長寿神の愛が訪れ、1年の前半は山の光が可憐に
 輝く。今も眠る野山に女性たちが設置するが、刃先はラクダの骨を並
 れて用いていた。

砂ぼこりは女性たちのきれいに着飾られた着飾るのを拒むのかけらに響か
 り、さらし顔の髪やシンプルな髪を束ねた丸髪、そして男性たちの髪に巻
 かれた大きなターバンやきりんと感えられた川辺の上にも響いた。砂ぼこりは
 古くから伝わるラバーリーの神話や伝説、女神パールバティとの縁にも響き
 持っているようだ。この女神は愛の守護神とされ、家畜を出て良い運の旗に
 出る前、ラバーリーの人々は今でも先祖にこの女神に祈りを捧げる。

ラバーリー (インド)



ラバーリー (インド)



長角ミャオ (中国)



アサロ (パプアニューギニア)



ヤズディ教徒のクルド (アルメニア)